



「森の名手・名人」に認定証を伝達しました。

平成28年2月17日（水） 富山県総合福祉会館において「森の名手・名人」の認定証伝達式を行いました。「森の名手・名人」とは、森や山に関わる生業や日本の風土・地域生活に染みこんだ営みのうち、優れた技をもってその業を究め、他の模範となっている達人を「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門ごとに「森の名手・名人」として認定しています。

平成27年度は全国で71名が認定され、本県からは「森づくり部門」で、植林・伐採等の経験・知識が豊富な鶴巻登志広氏、「森の伝承・文化部門」で、剥製づくりを行い野生鳥獣の生態に精通した寺田正義氏の2名が認定されました。

お二人の今後の更なるご活躍をご祈念いたします。おめでとうございます。

《 認定者の概要 》

氏名	部門	概要
鶴巻登志広 (砺波市)	森づくり部門（造林 手：植林・伐採等）	植林・伐採等の経験・知識が豊富であり、人工林で林業作業、広葉樹林で森づくりの活動を展開している。 また、施業集約化など里山再生整備事業における合意形成の中心的な役割を果たしているほか、NPO法人森林総合支援センター理事長として一般県民に対する森林環境教育や花とみどりの少年団に体験教室を行うなど、後継者養成にも積極的に取り組んでいる。 このように、地域林業のリーダーとして模範的な存在となっている。
寺田 正義 (朝日町)	森の伝承・文化部門 (剥製づくり)	県東部、新潟県糸魚川周辺で展示されているほとんどの剥製が寺田氏の制作によるものであり、昭和53年全国剥製士協会コンクールで銀賞を受賞している。 また、野生鳥獣の生態に精通し鳥獣害防除の基本から実践まで多くの後進を指導するとともに、野生生物との棲み分けに効果のある里山森林整備の重要性を訴え、地元での里山林整備に大きく影響を与えた。 野生生物の保護管理の実務にも大きく貢献されている。

